

令和8年度第1回 北海道立女性プラザ運営協議会 開催結果

1 日時

令和8年10月2日(金)13:30~14:40

2 開催場所

かでの2・7 620会議室

3 出席者

(1) 委員

芦名沢委員、大島委員、繁富委員、幡生委員、降幡委員、柚原委員

(2) 事務局

笹谷館長、近藤副館長、浜田、加津

4 議題

(1) 令和7年度事業実績について

(2) 令和8年度事業の執行について

①事業計画及び執行状況について

②購入図書等の推薦について

5 主な意見

- 若い世代のうちに、ジェンダーのことや DV のことに触れる機会は重要であるが、学校で予算を確保することは難しい事情もあると聞いている。ジェンダー平等出前講座の実施は、令和7年度は13校となっているが、もっと枠を増やしてもらえるとよい。
- 講演会やイベントに来る人の中には、ジェンダーについて話す機会が欲しいという方も多いので、そうした人を対象に広報し、交流会的なつながれる場に流れるといった構造をつくれるとよい。
- 男性の意識や職場の働き方、環境を変えていくためには、女性だけに依存しない、ヘルプではなくシェアという考え方が重要であり、女性に対するストレートなアプローチだけではなく、男性を巻き込めるような、一緒に来て話ができるといった建付けがあるとよりよい。
- 女性がセミナーで聞いてきた話をパートナーに伝えるよりも、ともに話を聞いた方が男性の納得感を得られやすいのではないかと。その際、男性に対しては説教臭くならないよう、「子育ては家族が幸せになるためのプロセスであり、あなたがこうすることでより幸せが増す」というようなメッセージを伝えることが大切
- 男性の電話相談については、それほど多くの相談はないようだが、月に 2 回のタイミングにフォーカスするのは難しいと思われるので、電話を待っているだけではなく、予約を受け付けて対応する形を検討してはどうか。
- 企業の方と話す機会があり、例えば、個人面談をする際に、パワハラなどで悩んでいる方に対して、男性相談のことについて話題にしても、実際に電話してみようという反応をする人は少ないのが現状。
- 最近は、女性プラザではSNSによる情報発信を積極的に行っているため、こうした取組もしつこく告知することで、普通に電話していいんだという意識に変わっていけばよい。

- 男性の場合、電話で悩みを話しても解決すると思えない、いいアドバイスがもらえるとは思えないという方が多いのではないかな。
- その意味では、個人が特定されない範囲で、こんな相談ができるとか、こんなことを教えてもらえるというようなことがわかると、単に告知するよりも効果が高いのではないかな。
- 北海道は広いので、女性プラザの企画する講演会やセミナーに興味があっても、実際に参加することにはハードルが高いのが実態であり、もっとオンラインの対応を増やしていただければ、地域に住んでいる者にとってはうれしい。起業相談もオンラインでできるということは、もっと知ってもらえるとよい。
- 女性プラザをご利用されている方のなかには、年代的に SNS をやってない方もたくさんいらっしゃるし、男性の方が女性プラザの Facebook やインスタを見ている方も多くないように思えるので、多くの人が集まる場所、例えばチカホなどで女性プラザの取組を知ってもらうようなイベントが開催できれば、もっと多くの方に届くのではないかな。
- ジェンダー平等出前講座については、講座の様子を知ってもらうために動画を作成して、配信したり、事業の PR などに活用してはどうか。
- 人口動態や世帯構成が変化している中で、子育て世代だけではなく、介護の仕方や施設選びといったことや、頼れる身寄りがない高齢者、いわゆるおひとり様といった方々など、男女共通の課題ではあるがニーズがあるものに対しては答えていくことが必要ではないかな。
- 介護については、女性に負担が大きい傾向があり、仕事をやめなければならないという事情も多い。過去に、男性向け講座で介護離職をテーマとしてセミナーを実施しているが、女性を対象とした相談会や研修会といった取り組みがあってもよい。
- オンラインによる事業展開に当たっては、YouTube やズーム、インスタグラムなど、スマートフォンの使い方、さらには AI の活用についての講座もあっていいのではないかな。